

小学校五、六年、四十名(五、六年在籍数の六十三パーセントに当たる)

事業計画(表1参照)

運営組織並びに状況
 運営委員会は、公民館長、社教指導員、青年学級生代表、公民館運営審議員により構成し、少年教室の全体計画、年間活動計画を作成する。青年学級生はボランティアとして少年教室活動の助言指導に当たる。

青年学級生ボランティアは、青年学級生および青年学級OBの中から少年団体活動に理解と意欲のあるものを選んで委嘱した。
 青年学級生ボランティアは、必要

表1 事業計画

月日	学習時間	学習事項	学習方法	学習場所	内容
6月24日	2	開講式、レクゲーム	講義・実技	公民館	開講式および室内ゲームによる仲間づくりをすすめる。
7月25日	4	オリエンテーリング	実技	野外	村内コースをつくり体力・気力・創意くふうの向上をはかる。
8月13日	2泊3日	少年キャンプ村開設	講義 野外活動	大熊町海岸	共同生活により協力・責任・友愛の精神を養う。
8月5日	3	村の産業	視察	村内	村内の工場・農業(タバコ、畜産水稲など)視察。
9月15日	4	サイクリング	実技	村内	自転車の正しい乗り方と体力づくり
10月28日	6	写生会	実技・鑑賞	いわき市海岸	移動研修バスでいわき市海岸の風景の写生と鑑賞。
11月11日	2	親子ソフト大会	実技	村内	親子混合チームをつくりソフト試合、体力づくりについて話し合う。
12月25日	2	親子映画鑑賞と話し合い	講義・討議	公民館	家庭形式の映画をみて親子の立場を理解し、話し合う。
1月2日	2	閉講式 たこあげ大会	講義・実技	公民館 小学校校庭	冬休み中の自作のたこを使用し創造性を高める。

四、事業の効果と今後の課題

に同じ研修会をもち少年教室指導について研修する機会をもっている。
 少年教室は、地域子供会のリーダー養成を目的としているので小学校五・六年生の中から希望者を募り編成したが希望率が高い。

○ 事業の効果

ア 集会をもつたびに、子供たちは仲間意識を高め友愛の精神が養われたようである。

イ 野外活動をおして責任感や協力の態度が向上した。

ウ 子供会活動に対する親の関心が高まった。

○ 今後の課題

ア 少年教室で習得したリーダーシップを部落子供会活動に役立たせるための施策を検討する。
 イ 地域社会や家庭に対して子供会活動の理解協力を求める方策を考える。

最後に少年教室に参加した児童の作文を紹介する。

○ オリエンテーリング

七月二十五日少年教室でオリエンテーリングをやりました。
 ぼくの班は第五班で白岩ひろよし君と仁美ちゃんとぼくの三人でした。二班から五分おきに出発しました。三けい

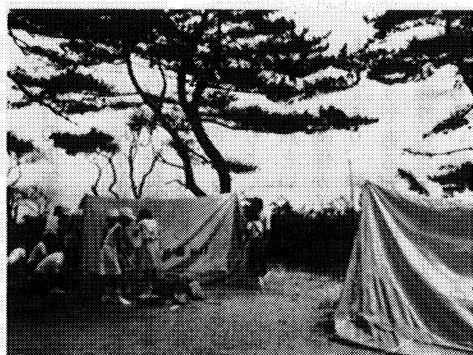


オリエンテーリング (天王山頂上)

しゃの所や、やぶの中で道をなんどもまちがえて、あわててもどったりしてやっとつきました。がなんとか三位になることができました。つらいけれどもたのしかったです。
 (五年宮城浩司)

○ キャンプの思い出

八月一日から三日まで大熊町の海岸でキャンプをしました。一番楽しかったことは自分たちで朝、昼、夕の食事をつくることでした。みんながこげつきみんなで笑いながらたべたこともありました。キャンプファイヤーではみんなでうたをうたったり、班ごとにだしものをして遊んだり、思い出の多いキャンプでした。らい年もいきたいと思います。
 (六年松本美奈子)



テント張りも楽しく。(キャンプ)